

## 2 目標達成計画

事業所名 : グループホーム ゆうゆう北沢

作成日 : 令和4年2月11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合ったものです。  
また、課題等は、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を掲げております。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	事業所内での利用者様の生活の質を向上させる為、職員一人一人が尊厳や自立支援の大切さを理解し行動して行かなければならないが、理解の程度、声掛け等の支援の仕方に個人差がみられている。尊厳や自立支援の意味雄理解しながら、どのように行動に移していけばよいか、職員一人一人が考えて行えるよう一定の水準まで理解を深めていかなければならない。また、2ユニットあるうちの片方のユニットはリーダーを中心に、それについて取り組みを始めているが、もう片方のユニットとしての取り組みを行えていない。	①職員全体に対し、尊厳と自立支援の理解を一定の水準まで深め、それに基づいた行動、支援を行える様にする。 ※一定の水準とは… ・職員が自分達の声掛けや支援に不適切なことがあった場合、それに気付き見直せるようにする。また、注意し合える関係性を作る。 ・自立支援の観点から、自分たちで考え、行動に移せるようにする。  ②不在のリーダーを擁立する。	①全体会議の場において、「尊厳」、「自立支援」についての勉強会を複数回行う。それに基づき、各ユニットにおいて細かい目標を設定し、課題に取り組む。一定の周期で内容を振り返り、新たな課題を見つけ、再度取り組む事を繰り返し行う。  ②管理者は、実際の場面を見ながら注意やアドバイスをしていく。  ③9月頃を目処に、リーダーを擁立できるよう、上記の取り組みを進めながら人材育成を行っていく。	12 か月
	37				
	38				
2	35	令和3年度は、事業所の余裕がなかった事やコロナ禍であった事から、簡易的な避難訓練しか行えなかった。次年度は実際の避難を想定し、行う必要がある。また、職員の動き方、実際の退路の把握、連絡の方法についても見直す必要がある。	①実際に想定した避難訓練を行う。  ②避難時のマニュアルを見直す。	①夏までに実際の避難を想定した訓練を立案する。  ②前回までの訓練での反省点や課題を見直し、避難時の行動や連絡方法等、誰が見てもわかるようマニュアルを見直し、作成をし職員に周知する。	か月